

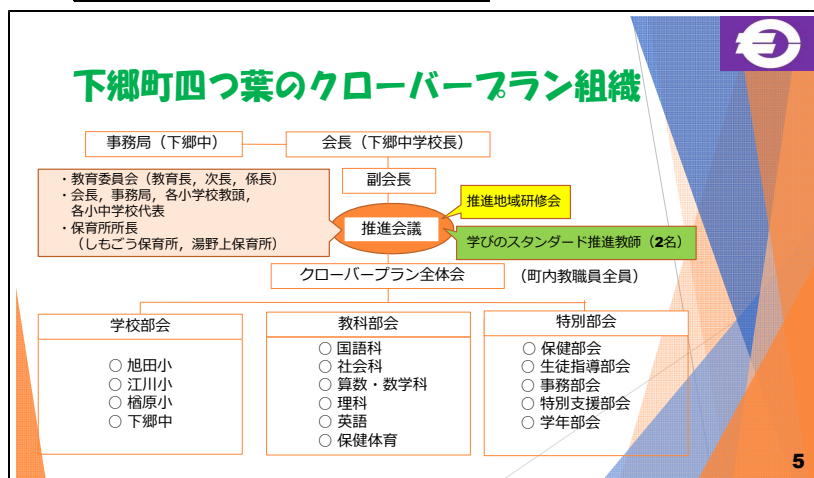
「平成29年度『学びのスタンダード』推進事業」の推進地域の取組

| | |
|---------|------------------|
| パイロット校名 | 下郷町立下郷中学校, 檜原小学校 |
| 推進協力校名 | 下郷町立江川小学校, 旭田小学校 |

下郷町四つ葉のクローバープランをもとにした 「学びのスタンダード事業」推進について

下郷町では、13年前から児童生徒の生き抜く力を支え「確かな学力」を定着させることを目的とした「四つ葉のクローバープラン事業」を立ち上げ、保・小・中の連携を核とした児童生徒の学力向上を推進してきた。「学びのスタンダード事業」もこれを核として、年間6回の推進地域協議会（組織は下図参照）を設け、推進してきた。

クローバープラン組織図



推進地域協議会の中では、授業スタンダードの取組や今後の方向性、チェックシートによる分析結果の共有により、小・中が共通理解を図りながら取り組めるよう、以下の取組を推進した。

1 推進地域における「授業スタンダード」の活用について

(1) 日々の授業改善の手がかりとしての活用（パイロット校・推進協力校共通実践事項）

① 日々の授業づくりに生かすために

これまでの授業や目の前の児童生徒の実態に応じて課題を洗い出し、その課題と「授業スタンダード」を照らし合わせ、改善に向けたポイントを見出した。職員室や教室などで手元に置き、常に参考にしたり振り返ったりできるようにした。

② 研究授業での授業づくりに生かすために

各自の課題を「授業スタンダード」と照らし合わせ、その改善点を明確にして授業を行った。また、指導過程においても、「授業スタンダード」の視点を取り入れた手立てを明確にした授業づくりを行い、実践した。

(2) 研修の充実を図るための活用（パイロット校・推進協力校共通実践事項）

① 授業づくり相談会で授業づくりに生かすために

研究授業の前には、授業づくり相談会（事前研究会を含む）を位置付けた。その相談会では、「授業スタンダード」を手がかりに授業づくりのポイントを話し合いながら授業づくりを行ってきた。

② 授業後の振り返りとしての活用

「授業スタンダード」やチェックシートの項目を活用して、授業後に授業構想や手立て等について振り返った。

(3) チェックシートの活用（パイロット校・推進協力校共通実践事項）

① チェックシートの自校化

年度当初のチェックの集計から、それぞれの学校の強みや課題を洗い出し、項目を

重点化したり新たに項目を付け加えたりして、授業改善に向けて意識化を図り、より実践に即した取組・振り返りができるようにした。

② 全職員でチェックし合い、互いに高め合う資料としての活用

授業を見合う取組の中で、授業後に全職員でチェックし合い、授業者とともに授業を見つめ直し、後の授業改善の手がかりとして活用した。

2 パイロット校の取組内容

(1) 推進教師の指導体制について

① 国語科における「タテ持ち」の取組について（下郷中学校）

推進教師が1学年から3学年までの国語科の授業を担当し、学年の系統性を考慮した指導体制をとった。（【図1】参照）

② 算数科における「教科担任制」の取組について（檜原小学校）

推進教師が算数科の専科（T1）で第4学年と第5学年の授業を担当し、担任（T2）は、個の実態に応じた指導ができる指導体制をとった。（【図2】参照）

具体的には、以下のような指導体制をとった。

| | |
|------|------|
| 1年1組 | 1年2組 |
| 2年1組 | 2年2組 |
| 3年1組 | 3年2組 |
| A先生 | B先生 |

【図1】中学校国語科「タテ持ち」の体制

| | | |
|----|------------|------|
| | 第4学年 | 第5学年 |
| T1 | 推進教師（算数専科） | |
| T2 | 学級担任 | 学級担任 |

【図2】小学校算数科「教科担任制」の体制

(2) 公開授業研究会・事後研究会の開催

パイロット校Ⅰ（下郷中学校）では、国語科・数学科・英語科・理科・社会科・保健体育科の5教科、パイロット校Ⅱ（檜原小学校）では、国語科・算数科の2教科を公開し、「授業スタンダード」を活用した授業改善の在り方等について協議した。



【中学校の公開授業研究会】



【小学校の公開授業研究会】

(3) 域内授業づくり講演会の開催

福島大学准教授 宗形潤子先生をお招きし、「これからの授業で大切にしたいこと」という演題で、新学習指導要領で大切にしたいことや実践例を通じたこれからの授業づくり等について講演いただいた。



【実践例をもとにした講演】

(4) 要請訪問の活用

パイロット校や推進協力校の授業研究会において、要請訪問を活用し、「授業スタンダード」の視点や教科等を指導するポイント等について専門的な見地でご指導いただく機会を設けた。



【事後研究会の様子（江川小）】

(5) 互見授業の機会の設定

① 互見授業の実施（研究授業以外）

研究授業以外にも推進教師の授業や先生方の授業を見合う機会を設置し、授業づくりについて学んだり自己の授業に生かしたりできるよう、研鑽し合う場をつくった。

② 部分互見・板書互見の実施

授業の一部（導入・展開・終末など）や授業後の板書を気軽に見合う互見授業を推進し、時間がない時でも気軽に互見できるようにした。

(6) 授業づくり相談会の実施

研究授業等では、授業構想や授業案作成の前の段階、授業案作成の途中の段階で、構想や悩み等を相談し合う場を設け、授業の在り方について協議し合った。

（ブロックまたは教科ごとの少人数で適宜開催）



(7) 模擬授業研修会の開催

1学期に、推進教師が模擬授業（先生方対象）を行い、全職員で授業の在り方について検討し、方向性を確認し合った。

【冊子を手がかりに相談を行う教師】

(8) 学びのスタンダードだよりの発行（校内や町内の先生方へ配付）※別紙参照

先生方の授業のよさや授業改善に向けての視点、講演会等の内容をおたよりに盛り込み、その内容を先生方へ伝達し、研修の場を広げた。

3 推進協力校の取組内容

(1) 「授業スタンダード」の活用（パイロット校と同様）

(2) 要請訪問の活用（パイロット校の取組と同様）

(3) 推進教師の活用

授業研究会・事後研究会への参加や授業づくり・指導案作成の段階での授業相談で推進教師を活用し、授業づくりについて一緒に考える機会とした。



【推進協力校の事後研究会（旭田小）】

4 成果と次年度へ向けて

1 成果

(1) 授業改善に向けた意識の高まりと取組

チェックシートを活用し、授業改善の視点を明らかにして授業に臨んだり、授業の振り返りを行ったりしたことで、授業をよりよく改善しようとする意識が高まり、日々の取組もより充実したものとなった。

(2) 研修の充実

「授業スタンダード」の冊子を共通の窓口にして授業を構想し、実践してきたことにより、授業の在り方について互いに研修を深めることができた。



【推進教師との授業相談】

2 課題

(1) 「授業スタンダード」のさらなる活用方法を探り、授業改善を図っていく。

(2) パイロット校と推進協力校の共通実践や推進教師のさらなる活用など、実践を通して、より連携を密にした取組を行っていく。

(3) 「家庭学習スタンダード」を授業とどう関連付け、活用を図っていくかを探る。

学びのスタンダード



だより



下郷町立檜原小学校
学びのスタンダード
推進教師

No.5

H29.6.5

講演会伝達

次期学習指導要領での授業の在り方

算数科：文部科学省国立教育施策研究所 教育課程調査官

兼 文部科学省初等中等教育局 教科調査官

笠井 健一 先生

数学科： 同

水谷 尚人 先生

【算数科における次期学習指導要領改訂のポイント】数々の中でも・・・

- ① 社会に開かれた教育課程
- ② 教科ごとに明確にされた「見方や考え方」の明示
- ③ 目指す資質や能力を踏まえた指導（今回、整理された）・・・統合的・発展的に考えること
- ④ 簡潔・明瞭・的確に表すこと（算数科の目標）
- ⑤ 目的に応じて柔軟に表す力（同）

主体的・対話的で深い学び

社会に開かれた教育課程

- ① 幅広い視野・よりよい社会を創るという目標・教育課程を介して社会と共有する
- ② 自らの人生を切り開くための資質や能力とは何かを教育課程で明確化する
- ③ 地域の人的・物的資源を活用するなど、社会と共有・連携する

次期学習指導要領

見方・考え方

- 今度の学習指導要領では、各教科ごとに「見方・考え方」が明示された。これは、教科の特質に応じたものであり、教科等の教育と社会とをつなぐものである。
→ 明確化することで、授業改善への取り組みを活性化する。

目標の明示（資質や能力の育成を目指す目標）

- ① 基礎的・基本的な概念の理解と処理する技能（知識・技能）
- ② 統合的・発展的に考える力、簡潔・明瞭・的確に表す力、目的に応じて柔軟に表したりする力（思考力・判断力・表現力）
- ③ よりよく問題を解決したり、問題解決しようとする態度、活用しようとする態度の育成（学びに向かう力・・・人間性）

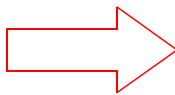
具体的に授業改善の視点とじては？

【算数科の目指す授業】（一部）

（1）「～が分かった」授業から「～ができるようになった」授業へ

例：（分数の学習で）

同分母の計算では、分子同士を計算する
（ことが分かった）



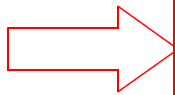
面積図（又は、テープ図）を使ったことで、分数の計算ができるようになった。
（～を使えばいいんだ）という理解

○ 授業では、問題→学び合いによる深まり（解決）→「適用」→まとめ（感想）

この「適用」の在り方が重要であり、学び合いによって深まったことを再度同じようにできるような適用を取り入れること

例：分数の計算で面積図などで深まった授業での適用

教科書の問題・ドリルなどをくり返し計算させる



他の分数でも同じようにできるか面積図を使って説明してみよう

つまり…「学び方にあった適用の仕方・ねらいを明確に」

（2）「主体的・対話的で深い学び」のある授業へ

「主体的」→本当に学ぶことに粘り強く取り組む子どもになっているかどうか。

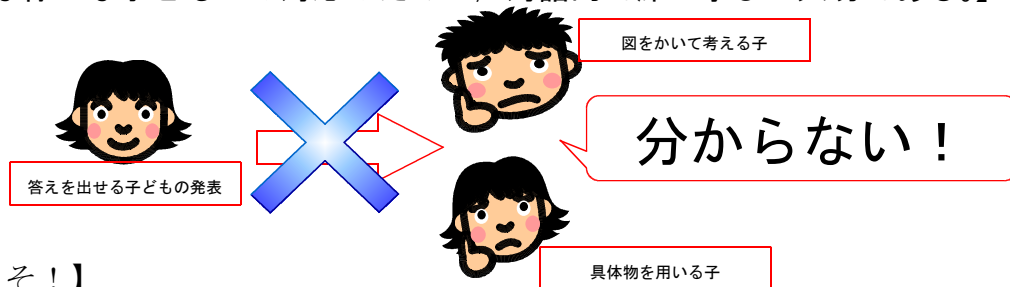
「対話的」→聴き合う関係になっているかどうか。

「深い学び」→よりよく特質を学びそれが使えるようになっているかどうか。

■ 学級には様々な子どもたちがいる（すぐに答えが出せる子、図を用いている子、具体物を用いる子）

【このような様々な子どもへの対応のために、対話的で深い学びが大切である。】

例：



【だからこそ！】

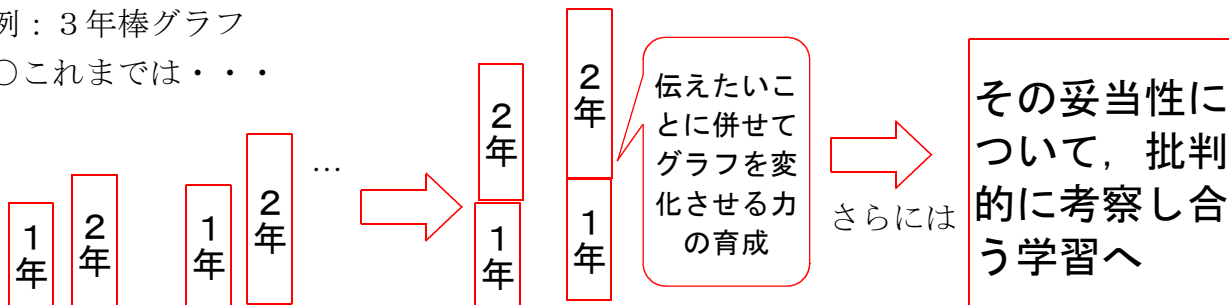
子ども自身が言葉を換え、式を変えながらより具体的に説明する場面をつくる。

→（対話的な学びが必要であり、深い学びへとつながる）

（3）簡潔・明瞭・的確で目的に応じて柔軟に表す力を育むために

例：3年棒グラフ

○ これまでは・・・



(4) 授業づくりのために

- ① 学習のねらいを明確にする。(単元の中でどのような位置付けか)
- ② つまづきに応じた具体的な支援を準備する。
- ③ 考えをかかせる。(言葉・図など)
- ④ 対話し交流する場面をもつ。
(切実感をもたせる)「なぜ、友だちの考えをきくのか、聴き合うのか」
《教師自身が学び方を指導していますか?》(と問いかけていました)
- ⑤ 課題が分からなかった時
「友だちなど誰かに聞く」
「何かで調べようとする」(これが大切なんだと話して下さい) とのこと

(5) 授業での使用する問い返し(全国学テで出てきていること)

- ① 「理由」を問う→どうして? どうしてそう思ったの? なぜ?
- ② 「方法」を問う→どのようにして考えたの?
- ③ 「事実」を問う→どうなったの?

(6) 単元構成の視点(単元や題材のまとまりの中で) カリキュラム・マネジメント

- ① 主体的に学習を見通し振り返る場面
- ② グループなどで対話する場面
- ③ 学びの深まりを創り出すための子どもが考える場面と教師が教える場面



指導内容とのつながりを意識しながら重点化する

(単元マップの作成などは有効である)

「授業づくりで意識したいこと4つの鉄則」

- ① 児童生徒が将来必要とする力を見据える。
- ② 習ったことを活用する機会を設定し、その際、言語活動の充実を図る。
- ③ 学習している内容の価値を実感できるようにする。
- ④ 「子どもたちにどういった力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉える。

(おわりに)

今回の講演会で、まず、やろうと思ったことは次期学習指導要領を読むことです。(ネット検索)(ただ、これは、かなりの分量があるので、ポイントは、「初等教育資料(3月号・4月号)」にあるそうです。)

今回の資料では、きっと、伝え切れていない部分などあるかと思いますが、その際には、別資料をご覧になるかまたは、相談して下さい。私も分からない部分もありますが、一緒に考えていければと思います。一緒に考えていきたいと思えます。子どもたちのために、よりよい授業作りをしていきましょう。私も日々、精進したいと思います。

学びのスタンダード



だより



学びのスタンダード
推進教師
No.8
H29.9.20

2学期がスタートして、まもなく1か月を迎えます。各種行事も目白押しになってきました。日々の授業とともに行事への取組もあり、先生方もお忙しい日々を送られているのではないのでしょうか。忙しい時期だからこそ、体調には十分に気をつけていたいものです。

楢原の取組から

2学期がスタートし、楢原小学校の授業研究会がありました。4年生の国語の実践でした。その授業の取組をご紹介します。

4年生国語科「広告と説明文を読み比べよう」の学習です。この授業では、教師の見取りを生かした支援の工夫が満載の授業でしたので、ご紹介します。

導入の段階で、見取りを生かした工夫

【広告と説明書の表し方の工夫を見つける課題へ】

| | | |
|---------------|--|---|
| 導入 既習の振り返り | 前時までの学びの足跡を残した掲示の活用 | これまでにどんな学びをしていたのかを掲示を活用して振り返り、クラス全員が同じ土俵にのってスタートすることができました。 |
| 見通し 焦点化 | <p>焦点化を図ったり、どんなことをするのかを理解させたりするための例示</p> <p>○ 次期学習指導要領で大切にされている「見方・考え方」を踏まえています。</p> | <p>(具体的な姿を例示する) ←「考え方」 「広告では○○だけど、説明文では○○だなあ」と考えてみよう。</p> <p>(具体的な内容を例示する) ←「見方」 「(前の時間にいくつか見つけていた班があって、)見出しに色がついているけど、こっちはついていない」など・・・。」</p> |

「本時でどんな姿を目指すのか」という教師の思いや願いが明確であることがうかがえます。

それが、例示という形となり、子どもたちに伝えていくことで、子どもにとっても、考えやすくなりますね。

(考え方)



前時までの子どもの学びを見取り、本時に生かす部分を導入で使用しました。このように導入で取り上げるにより、本時の学習では、どこに目を向けていけばよいのかが明確になりますね。(見方)



前時までの子どもの学びを生かすことで、子どもの思いが連続し、より意欲が高まったり、さらに調べようとする追究意欲がわいたりします。本時のねらいに照らし合わせて、「どの部分を取り上げるのか」を構想したとても素晴らしい実践でした。

この導入ができる背景としては、きちんとした単元構想があり、前後の流れをしっかりと把握している教師の教材研究があるからなのです。

グループ活動での 教師の支援

広告と説明書の表し方の違いをグループで考えさせる活動の際、次のような教師の見取りと支援がありました。(一部ですが・・・)

| | |
|--------------------------|---|
| 「どうしてこう考えたの？」 | 教材文に立ち返り、考えがより明確にできるように、根拠となる文や資料をもとに考えるよう促した支援 |
| 「ここは、あの4つの視点の〇〇をよく見てみよう」 | 課題がなかなか解決できず、話し合いが停滞していたグループに対して、話し合う視点を与え、さらに活性化した支援 |
| 「なにかいいことあるの？」 | 本時のねらいに結びつく「表し方の効果」を考えさせるための発問 |

グループでも、子ども一人一人の学びを丁寧に診ている教師の姿が印象的でした。

見る



| 机間指導のポイント | 具体的な内容 |
|--|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 少人数教育のよさを生かして、子ども一人一人の学習の様子を見取る。 | <input type="checkbox"/> ノートやワークシートを「観る」。 <input type="checkbox"/> 学習の進め方や理解の実態を「診る」。 <input type="checkbox"/> 学びの様子を把握して、個に応じて「見る」 |
| <input type="checkbox"/> 少人数教育のよさを生かして、子ども一人一人を適切に評価する。 | <input type="checkbox"/> つまずきのある子どもには、具体的に支援する。 <input type="checkbox"/> 学習の深まりのみられる子どもには、学習の支援者としての役割をもたせたり、別の立場から考えさせたりする。 |
| <input type="checkbox"/> ペアやグループでの話し合いの状況を見取る。 | <input type="checkbox"/> 友達との関わりを「観る」。 <input type="checkbox"/> 学習の進め方や理解の実態及び変容などを「診る」。 <input type="checkbox"/> ペアやグループの学びに応じて「見る」。 |
| ※「みる」について <input type="checkbox"/> 「見る」…そのときの反応や、学級全体の傾向を知るとき <input type="checkbox"/> 「観る」…ノートへの記入状況や課題への取組状況など視点を決めて把握するとき <input type="checkbox"/> 「診る」…学習の仕方や理解の方向は確かであるかを把握するとき <input type="checkbox"/> 「見る」…子どものつまずきを丁寧に捉え、理解や活動を促すとき | これらの視点で机間指導をすることが大切です。 |

【スタンダードの冊子から】



教師が子どもたちの学びを「観て」どのような支援が必要であるのかを「診て」、活動を促すにはどうしたらよいかを「見た」とてもいい支援でした。この支援があったからこそ、授業では、グループ活動が活性化し、表し方の違いをどんどん見つける子どもの姿を生み出したのだと思います。

《授業改善 のために》

ポイントは、
【 グループ活動での支援 】

「グループ活動の時に、教師はどのような支援をしたらよいのかな？」「どんなことに心がけていけば？」と悩んでしまうのではないのでしょうか。上記のようなことを基本にして、「とにかく、子どもの学びを見取る（一人一人）」ということに徹するのも一つだと思います。まずは、このことをやってみることこそが、授業改善にもつながります。

上記の項目の中には、「友だちとのかかわりを観る」という項目もあります。では、グループの際にどのようにすればよいのでしょうか。どのような支援が必要なのでしょう。そこで、一つの提案です。

| | |
|---|--|
| 分からない様子で困っている子どもを見かけたとき 【周りの子どもとのかかわりをもたせる支援】 | <input type="checkbox"/> 「隣の友だちに訊いてごらん？」とかかわりを促す。 <input type="checkbox"/> 「〇〇くん。困っているようだよ。声をかけてあげると、助かると思うよ。」と助け合うかかわりを促す。 |
| 「待つ」 ※ もちろん、どんな学びをしているかは、きちんと診ている上での支援です。 | <input type="checkbox"/> 何もしていないように見えますが、実は、この「待つ」という支援も大切なのです。じっくりと考えているのかもしれない、自ら動き出そうとするのかもしれない。 |



学習発表会や文化祭等の大きな行事が行われたり、これから迎えたりと、とてもお忙しい日々を送っていらっしゃるかと思います。

さて、先日江川小学校の1年生生活科の授業研究会に参加させていただきました。大変遅くなりましたが、その授業について先生方にご紹介したいと思います。

江川小の 取り組みから

子どもたちの思いを大切にしたりとても温かい素敵な授業でしたので、ご紹介します。《単元：つくろう おもちゃ》

ポイント その1 「導入の工夫・ 問いの引き出し」

【子どもの思いを大切にしたい問いの引き出し】

| | 教師の工夫 | よさ |
|---|--------------------|--|
| ① | 教師の見取りを生かした問いの引き出し | ○ 前時の活動で膨らんだ思いを教師が見取り、それを生かして本時の問いへつなげたこと。 子どもたちが前時の活動の中で膨らんできた「もっと〇〇したい」という思い（問い）を本時につなげたこと。 |
| ② | 思い（問い）の可視化 | ○ 見取った思いを一覧（表）にしたことで、思いが可視化され、自分の「もっと～したい」が明確になったこと。 (子ども一人一人の思いを大切にしている教師の思いが感じられました。) |

（ここでのポイントは・・・）

子どもの思いの連続性を大切にすること。



生活科の学習では、子どもの思い（問い）をつなげ、どう膨らませていくのかがポイントです。こうすることが主体的な学びへとつながります。子どもの思いを大切にしている教師の温かさが感じられたとてもすてきな導入でした。

ポイント その2 「教師のかかわり」

活動の中で、教師はどのように接していけばよいのか、私もたくさん悩みます。今回の授業では、4つのすてきなかわりがありましたので、ご紹介いたします。

（裏面へ）



| 教師のかかわり | よ さ |
|------------|---|
| ①「共感」する姿勢 | ○ どうしたらもっとよくなるのか悩む子どもに、「どうしたらいいんだろうね。(悩んでいるんだね)」と言葉がけを行いながら一緒に悩む教師の姿がありました。子どもは、「一緒に考えてくれるんだ。」そう、安心したはずです。 |
| ②深める「問い返し」 | ○ 「どうしたらもっと〇〇するようになるのかなあ」と、悩んでいる子どもの思考に寄り添いながら、さらに思考させる問い返しをする教師の姿がありました。 |
| ③「比較」 | ○ 「前に作ったものはどうだったかな？」前時までには遊んでいた自分のおもちゃと比較させる言葉がけを行う教師の姿がありました。比較させることで、「もっと～したい」という思いがより明確になりました。 |
| ④ほめる（ほめ返す） | ○ 「先生、よく回ったよ」「先生、バランスよくなったよ」などと、「もっと～したい」という思いをを実現できたことを伝えにきた子どもに対して「すごいね。よくできたね。」などと、一人一人の子どもに言葉を返す教師の姿がありました。 |



授業では、子どもと一緒に活動したり考えたりする場面がとても重要であることがあります。特に生活科は、一緒に活動することで、思いが共有でき、子ども目線で物事を見たり考えたりすることができます。

私も以前に子どもと一緒に砂場で穴を掘ったり、どろどろになって遊んだりしたことを思い出しました。一緒に遊んだことで、話さなくとも次の活動が分かったり、喜んだりできました。

今考えてみると、子ども目線で一緒に活動するというかかわりは、言葉に表さない「対話」なのだと思います。

《授業改善 のために》

【内面の可視化】

今回の生活科の授業のような「もっと〇〇したい」という「問い」は、子どもそれぞれの内面にあることが多いです。それは、時に姿として現れることもありますが、内面に隠れてしまっていることが多くあります。「その問いをどう捉えればいいのか」「この子どもは、どんな『もっと』なのだろう」と思うことがあるのではないのでしょうか。そのようなときには、

〇〇がすごいね。
どうしてそうしようと
思ったの？



内面の問い返しにより、子どもの思いが明確になったり、次の活動の問いを引き出したりすることができます。